



題字 出口直日

通巻 第 5 1 4 号
発行 大本 東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒 110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL (IP) 050-5510-9502
03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
<http://www.oomoto-tokyo.com>
E-mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

今月の聖言

縷々として尽きざる神諭数万言

くり返しつつ錦の機織る

出口王仁三郎聖師

開教百二十年の佳節を迎えて

東京宣教センター長 浅田秋彦

開教百二十年の佳節を迎えましたことを、心からお祝い申し上げます。

明治二十五年壬辰年^{みずのえたつ}から干支が三巡目という佳節を寿ぐとともに、歴代の教御祖さまのご聖苦とご教導に深く感謝を申し上げます。

また、教主さまにはこの十年間、これまでのみろく神業を国内外に大きく展開されてこられたことに対して、感謝とお慶びを申し上げます。

この佳節を迎え、私たちは本年度の教団方針にある「自己を磨き、人を思いやり、教団全体が大神人体化して「良い型」をつくり、宣教センターとしての働きを発揮する」ことです。

これを進めるには、まず、開教の精神にかえり、信仰生活の基本を見直すことです。また、初心にかえって、『大本神論』の拝読に努めさせていただきます。

次に、大本のみ教えは、みろくの世への救世の教えであり、教団はみ教えを世界の人々に宣べ伝える使命があります。その意味からも、今は宣教センター時代であり、大道場修行時代と言われるゆえんです。

私たち信徒は、「み教えの真の実践リーダー」となり、信仰の喜びを家の内に深く、外に広くお伝えする使命を担っています。

また、東京宣教センターは、首都圏宣教の使命を担っています。今年は新橋での公開講座や東京本部での常設対外講座を開催します。

一方、関東教区各主会としては、「生きがい講座」や「み教えの歓ぎの座」を進めるとともに、信徒一人ひとりが「み教えの実践リーダー」となって、お導き活動に、お世話活動に努めることが望まれます。

最後に、関東教区各主会と東京宣教センターが、一丸となって、首都圏宣教に邁進し、宣教センター時代の先駆けのご用にお任せさせていただきたく存じます。



五代教主作 灰釉茶盃銘「顕現」

生きがいを求めて



講師 森 よしひで 秀
(東京宣教センター次長)

自然との共生

私たちは人間は、自然と共に共生しています。例えば、天地が春になれば気持ちも春のように清々しくなりますし、寒い冬に向かいますと、気持ちまで重く寒々しい気分になってきます。これは大変不思議なことですが、事実です。

私たちはこの自然の影響をいろいろな形で受けて生活を営んでいます。しかし私たちが人間の営みが自然に影響を与えていることもあります。大本の教祖出口王仁三郎は次のように示しています。

『大三災小三災の頻発も人の心の反映なりけり』

これらの災いが頻発するのは決して偶然ではなく、人の（我よし）の心が大きく反映すると教えています。そういう意味で私たちが、まさに自然と共生しており、心の持ち方が大事です。そこで、本日は「心の持ち方」をキーワードにお話を進めてまいりたいと思います。

感謝することの大切さ

ところで、私たちは生かされていること

に「感謝すること」を常日ごろあまり考えたりしません、このことが如何に大切かを話ししてみたいと思います。

現代の科学では、四十五億年前に地球ができて三十五億年前に水の中に生物が誕生したと言われています。最初に出来たのは単細胞生物です。例えば、アメーバーです。プランクトンのような餌が来ると足を伸ばしてこれを体の中に取り込む。細胞が一個しかない。脳も目も神経も血管も何もない細胞が、どうしてそこに餌があることが分かるのか、どうして足を出すのか不思議ですね。これは、細胞の遺伝子に生命を生かす設計図が書き込まれているのだそうです。森羅万象ごとく細胞の遺伝子には、同じように命の設計図を備えている。だからこの地球上には、自分で生きている生物は一つもない。人間は自分で生きていると思っ

ている。これは大きな間違いなんです。だから、私たちは生かされていることに感謝しなければならぬのです。

感謝とはどういうことか、これを宇宙の構造からお話してみたいと思います。太陽・お日さまは、暖かくて明るい皆さん思っ

私たちが住んでいる地球は、太陽の恵みで、光と熱があると思われていますが、地球の

大気圏を出て、宇宙間に入ったらどうなるでしょう？そこは暗く冷たい闇の世界です。決して暖かくも明るくもないのです。何故地球は暖かくて明るいのか？実は地球の周りを覆っている薄い層、空気、この空気に反射した時に、暖かさや明るさ

に変わるのです。感謝も同じことが言えます。神さまからの暖かい波動というのは、常に全人類が共通に受けています。神さまのご意志は、大宇宙を創られ、人間を素晴らしい世界に安住させるためなのです。

ですから、そこにはえこひいきなどは存在しないのです。しかし、実際には幸せになっ

ている人と、不幸のままにいる人がいるのはおかしいではないか？と思われる方が

あるかもしれません。神さまからの波動は、感謝する人に反射してお恵みに変わるのです。感謝するから、お恵みをいただけるのです。

それでは、子どもが無事大学に合格できたら感謝のお礼参りをします。これではダメな

のです。これでは神さまとの「取り引き」になっ

てしまいます。お願いして通ったから、「じゃあ感謝します」ではいけません。感謝があつて、初めてお恵みを

戴けるのです。理屈のない感謝こそが本

当なんです。また感謝は現状を受け止め、生活のプレ

ネガティブなストレスを、ポジティブなストレスに転換できるのが、感謝なのです。

人は天地経綸の責任者

人はこの世に何のために生まれてきたのか。大本の教えに、端的に示されています。「用」のためです。用とはハタラクです。人は天地経綸の責任者であると説いています。

天地の経綸とは、至真至善至美至愛の至安至楽の世界、地上天国の建設です。

ところが、現代人の中には「ハタラク」ことと、「稼ぐ」ことをごっちゃにしているのです。働くとは、世のため人のために働きます。「傍が楽」になることで、その精神は利他的です。一方稼ぐとは、お金を得ること、儲けること

のみに一生懸命で、エゴで金銭欲、物質欲を満たしたい利己的行動です。「忘己利他」という伝教大師の教えが

想念のコントロール

ありますが、己を忘れて、他を利することよりも人様のこと世のためのことを先にしなさい、それは慈悲の極みであるとおっしゃっています。

想念とは、思念のことを言います。心の動きを上手にコントロールしていくと、消極的で否定的な

想念が、積極的に肯定的な気分に変わることがあります。王仁三郎は『人には貪・嗔・痴の心あり』と示しています。人が克服すべき煩惱を表したものです。「貪」とは、貪欲で、欲深いということ。「嗔」とは、ねたみ、うらみ、呪いなど、本当に良くない想念を指します。「痴」は、愚痴、不平

不満です。

世の中を良くない状態にしているのは、実はこれらの想念なのです。こういった想念をなくしていかなければならないのですが、完全になくすることは不可能です。しかし薄めることは出来ると思います。『明るい前向きな素直な気持ちに持つていくことはできます。それには、まず人に好かれる努力をする必要があります。そのためには、やはりいくつかの条件があります。ここでは、三つの条件を挙げてみます。

一つ目は「謙虚である」ことです。大本の教典『霊界物語』の中に、私たちが死んだら行く霊界の世界が詳しく書かれてありまして、天国の各団体の統治者は、尊大ぶらないであくまでも謙虚です。謙譲の美德で人を治めています。

謙虚な人は、私たちの周りにもたくさんいらつしやいますが、接していてもやはり感じが良く、好かれます。

二つ目は「他を認める」ことです。職場、あるいは家庭でいろいろな議論があるときに、すぐに「いや、そうじゃないよ」と否定してしまうことがあります。でも、相手の言ったことを頭から否定しないで、「確かにそういう考え方もあるね」と言うと、お互いの意見が尊重できて、議論が長続きします。人は認められると力を発揮します。

三つ目は「約束を守る」ことです。信用できる人は、約束を守ります。信用を得るには本当に長い年月かかりますが、失墜するのは一瞬です。また信用は、お金では買えません。

このように「謙虚である、他を認める、

約束を守る」は、人間の人格を表した言葉でもあります。

真の生活は主観

人とは不思議な生き物で、心の持ち方一つで、地獄は天国、極楽にもなります。何をしていたら幸福で、何をしているから不幸だということはないのです。何をしても幸福だと思つたら幸福なんです。これは大変大事なところで、私たちは、自分の主観が全ての結果を決めているのです。

例えば、ここにお水が半分入っているグラスがあります。このグラスを見て、Aさんは「なんだ、半分しか入ってないのか」と不足を言いました。

一方Bさんは「あ、半分も入っている。有り難い、誰かが残してくれたんだ」と感謝の気持ちを持ちました。

真実は、グラスの半分の水だけです。でもAさんは不足を言い、Bさんは感謝の気持ちを持った。この違いは大きいですね。

何をしていたら幸福で、何をしていないから不幸だということはありません。自分が幸福だと思つたら幸福なのです。主観がすべての結果を決めるのです。

自分を鍛える溶鉱炉だと思えば結構な世の中であり、自分を苦しめる溶鉱炉だと思えばたまらない世の中です。

先ほど申し上げたように『貪・瞋・痴』をなくすことは出来ません。でも、なくさなければならぬと悩む、苦しむ、それでいいのです。

何とも思わない人より、悩み苦しみ反省する人はよほど進化しているのです。

“こういう気持ちになつたらいけない”と、省みることによって、良くない想念が薄まる。これは改心の原理でございます。

宗教では“心を改めなさい”と言います。それは、心の主観の持ち方を変えなさいということなんです。人間の真の生活は、主観なので

主観の持ち方によって、地獄は天国・極楽にも変わっていきます。それほど心の持ち方というのは、私たちに大きな影響を与えていると言えます。

祈りは根源につなぐ

今日、西洋医学の世界では代替医療と並んで祈りの効果に関する研究が盛んだそうです。

アメリカのカリフォルニア大学では、心臓病患者さん四百人を二組に分けて、一組の方には祈りを捧げ、もう一組には祈りを捧げないという実験を行いました。

そうしたところ、祈りを捧げた患者さんは、捧げなかつた患者と比較して、人工呼吸器、抗生物質、透析の使用率が減り、肺気腫になつた人が三分の一で済んだり、気管内送管をせずに済んだのです。

この祈りは、場所や作法はこだわらず、とにかく毎日祈りを捧げたそうです。それでもこれだけの効果が出たのです。

王仁三郎は『祈りにまさる宝なし』と説いています。

祈りの効果を引き出すには、心の持ち方が大切です。“ありがたい”という、理屈を超えた感謝と、そしてそこに敬虔な祈りを捧げるのですが、真摯な思いで祈られたら、

効果は必ずあります。その都度その人にとって、最適の結果が出ているのです。

祈つても効果がないじゃないか！と思われる方もいますが、不純な思いで祈つても、その効果は出てきません。

祈るには、場所、時間といろいろなありますが、思つたその時に、根源の神さまに直結するように祈ります。家にある神棚や仏壇、十字架でも構いません。そこを思い浮かべます。そしてさらにその奥の根源神へ想念を繋げていきます。

ここで申し上げる根源神とは、天地を創造された大元神です。窓口は、キリスト教でも仏教でも神道でもいいのです。とにかく根源神に結びつくように祈りを捧げることなのです。

現界では人間こそが神さま

王仁三郎は、『現界では人間が神さまなのだから、神さまに仕えるように目の前にいる相手を大事にしなさい』と教えています。

みんながそういった気持ちを自ずと持つと、お互いが敬い合つて、争いがなくなり、本当の『みろくの世』が招来するでしょう。

祈りと感謝を、日々の生活の中で具現化させることが大変大事です。これが、まさに生きがい求めていく中で重要な要素だと言えます。

そしてより良く生きるためには、心、想念を磨くということ。感謝と祈りの生活によって、霊魂の浄化をより深めていくこと。このことを、私たちはしっかりと受け止めて、日々の生活に精進させてもらいたいものです。

東光苑月次祭

東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は十二月十一日、午前十時三十分から、齋主・成尾義愛善宣教課主幹のもと執行され、三百七十人が参拝した。

祭員は関東教区各主会青年部員、少年祭

員は東京主会の涌井大嗣郎くん、伊藤奏流くん、伶人は宮畔会関東支部、大本神諭拝読は日下竹彦東京主会青年部員、添釜は村井社中のみなさんが担当した。

祭典後、浅田秋彦東京宣教センター長があいさつに立ち、十二月四日に執行された天恩郷・新大道場講堂の完成奉告並びに内

平成24年度「教団方針」から……

東京本部・東京宣教センターに関わる『重点施策』のご紹介

東京宣教センターは、首都圏の宣教活動および人類愛善会活動を積極的に推進し、教勢の拡充に努めます。

- 1 人類愛善会活動を通してみ教えを広く伝え、首都圏の教勢の拡充に努めます。
 - (1) 一般の方を対象にした「大本紹介講座」を毎月第三水曜日、新橋で開催します。
 - (2) 大本常設対外講座を毎週三回（月・水・金）、東京本部で開催します。
 - (3) 一般の方・家庭内未信徒対象の「身の上相談コーナー」を設けます。
 - (4) 関東教区各主会の宣教活動・人類愛善会活動を支援します。
 - (5) 首都圏に在住する地方機関所属および東京本部直属の信徒に対し、東京本部で行う月次祭・諸行事への参拝・参加をすすめます。
 - (6) 刊行物・東京本部ホームページ（<http://www.oomoto-tokyo.com>）・広報などを通して、対外講座などの情報や人類愛善会活動を広く宣伝します。
 - (7) 七草粥、観桜茶会、秋をめでの夕べ等、日本文化を広く一般の方に案内します。
- ### 2 祭祀の厳修につとめます。
- (1) 開教百二十年東光苑春季・秋季大祭を執行します。
 - (2) 東光苑祭祀講習会を春季・秋季に開催します。特に、葬祭要員の養成の強化をはかります。
 - (3) 企業繁栄祈願祭（4月）・家庭平安祈願祭（10月）を執行します。
 - (4) ご祈願、み手代お取次ぎ、身の上相談を行います。
- ### 3 一般大衆および文化人・諸官庁・マスコミ関係・友好団体・他教団への情報発信・交流・渉外をすすめます。

覧会の様子などを報告したほか、来年度の教団方針の要点や来年一月から東京宣教センター主催で実施する「常設対外講座」と「公開講座」について紹介。「みろくの世への実践」に向かつて、信徒一同が荒魂を發揮して邁進していかなければならない」と力説した。

第106回「21世紀、生きがい講座」

第一〇六回『二十一世紀、生きがい講座』は十二月二十一日午後七時から九時まで、東京本部講座室において、浅田秋彦東京宣教センター長を講師に「世界に活動する大本」と題して開催された。参加者は十人。

講座では、世界・日本・大本・人類の使命についてや開教以来国内外で進められた大本神業について解説。「大本は日本へ、世界へと天国の雛型を発信していくところであり、大きな使命・活動である」と説いた。参加者からは「自分自身の今後の生き方を考え、指針となる二〇一一年最後の講座に相応しい内容で、良い学びとなりました。（四十九歳・女性）」などの感想が聞かれた。

「大本公開講座」参加費変更のお知らせ

先月号の本紙で紹介しました「大本公開講座『出口なお・出口王仁三郎の世界を語る』」の参加費が変更になりました。

参加費 一、〇〇〇円（信徒・一般共）

になります。謹んでご報告申し上げます。

大本東京本部・東京宣教センター

東光苑祭典・行事予定

平成24年1月

新年祭

1日（日） 午前7時

年賀交換

1日（日）～3日（火）

七草粥

7日（土） 午前10時半～午後3時

東光苑月次祭・成人式典

8日（日） 午前10時半

「出口なお出口王仁三郎の世界を語る」

講師 大本の神示と世界の将来

講師 森良秀（東京宣教センター次長）

会場 航空会館（港区新橋）

18日（水） 午後7時～8時半

聖師毎年祭（64年）

19日（木） 午前10時半

2月

開教120年節分大祭選擇祭

二代教主・四代教主聖誕祭

3日（金） 午後6時半

東光苑月次祭・豊年祈願祭・市杵島姫命例祭

12日（日） 午前10時半

「出口なお出口王仁三郎の世界を語る」

講師 立替え立直しの仕組

講師 浅田秋彦（東京宣教センター長）

15日（水） 午後7時～8時半

教本3級認定講習会

25日（土） 26日（日）

※「常設対外講座」は1月9日から実施！